

新幹線で四国を変えよう!

# 新幹線を活かした 四国の地域づくりビジョン調査



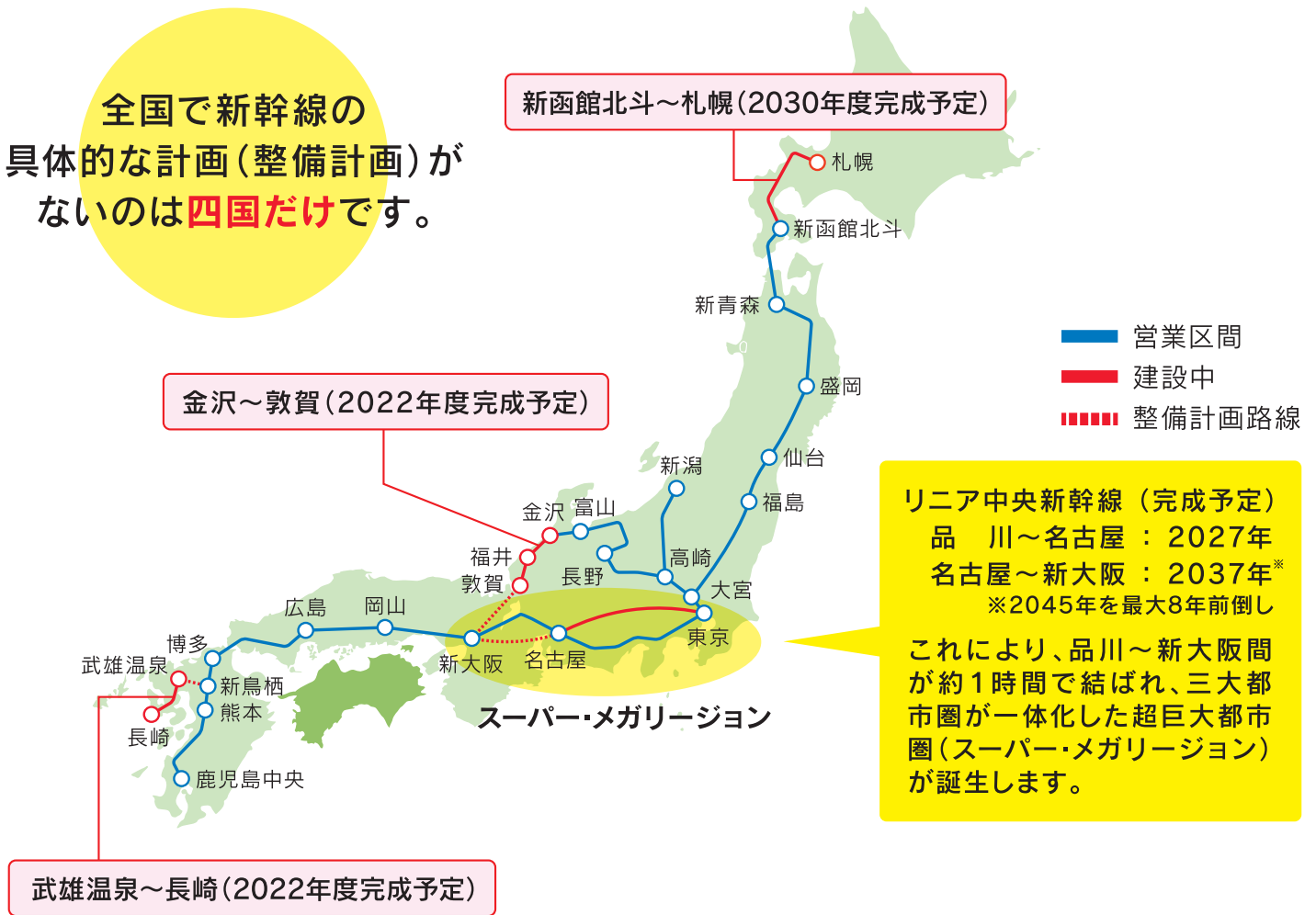
さあ、次は四国の番だ。

四国新幹線整備促進期成会  
四国アライアンス地域経済研究分科会

# 本調査の目的と実施体制

本調査は、四国の新幹線整備に対する理解促進と一層の機運醸成に向けて、新幹線が四国にもたらす変化やその効果を最大限に活かすための地域づくり、四国づくりのあり方を明らかにすることを目的に、四国の4地方銀行（阿波銀行、百十四銀行、伊予銀行、四国銀行）の包括提携「四国アライアンス」の地域経済研究分科会（各行の系列シンクタンクで構成）が中心となって行ったものです。

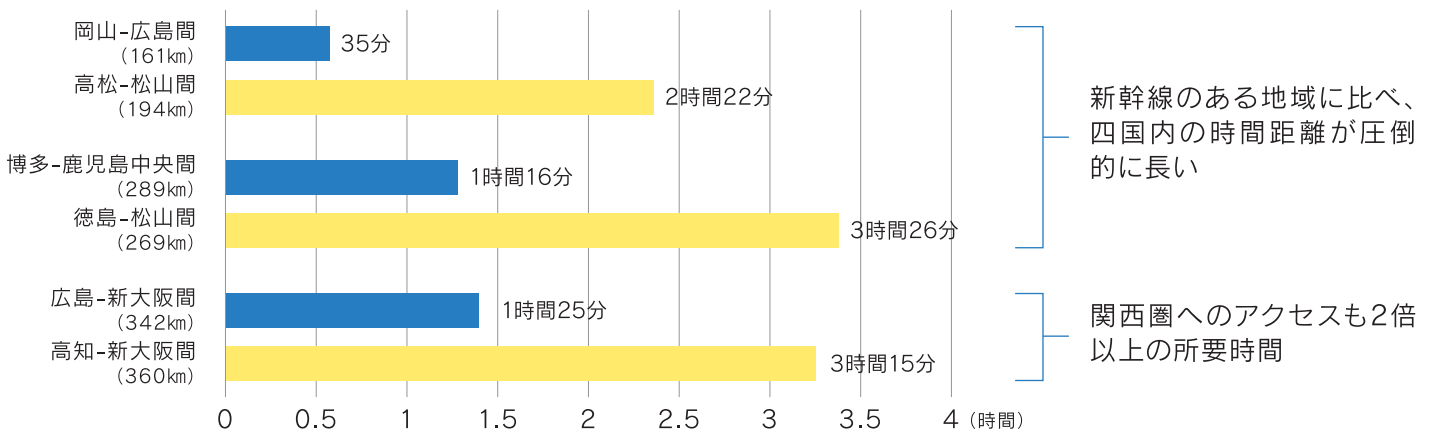
# 進化する高速鉄道の世界から取り残された“新幹線のない島”四国



# 新幹線のない四国の課題

## 1. 本四間、四国内の長過ぎる時間距離

鉄道で同程度の距離にある都市間の所要時間



## 2. 地域をけん引する地方中枢都市の不在

四国は人口が最大の松山市でも51万人<sup>\*</sup>に過ぎず、九州の福岡市のような地域ブロックの発展をけん引する百万人規模の地方中枢都市がありません。

※2015年国勢調査

## 3. インバウンドを中心に潜在力を発揮しきれていない観光

四国は魅力的な観光資源が豊富にあるにもかかわらず、外国人延べ宿泊者数の全国シェアは1%<sup>\*</sup>に過ぎません。

※2017年速報値

## 4. 競争力のある産業も総じて小粒

四国にはニッチトップ企業<sup>\*</sup>が少ないものの、地元企業の経営規模は総じて小さく、また、域外企業の進出や成長企業の創出も低迷しています。

※特定の分野で世界一、日本一のシェアを誇る企業

## 5. UIJターン(移住)の受け皿として見劣りする四国

大都市圏からの移住希望者は多いものの、長距離移動時の所要時間の長さへの不満がUIJターンの障害になっています。

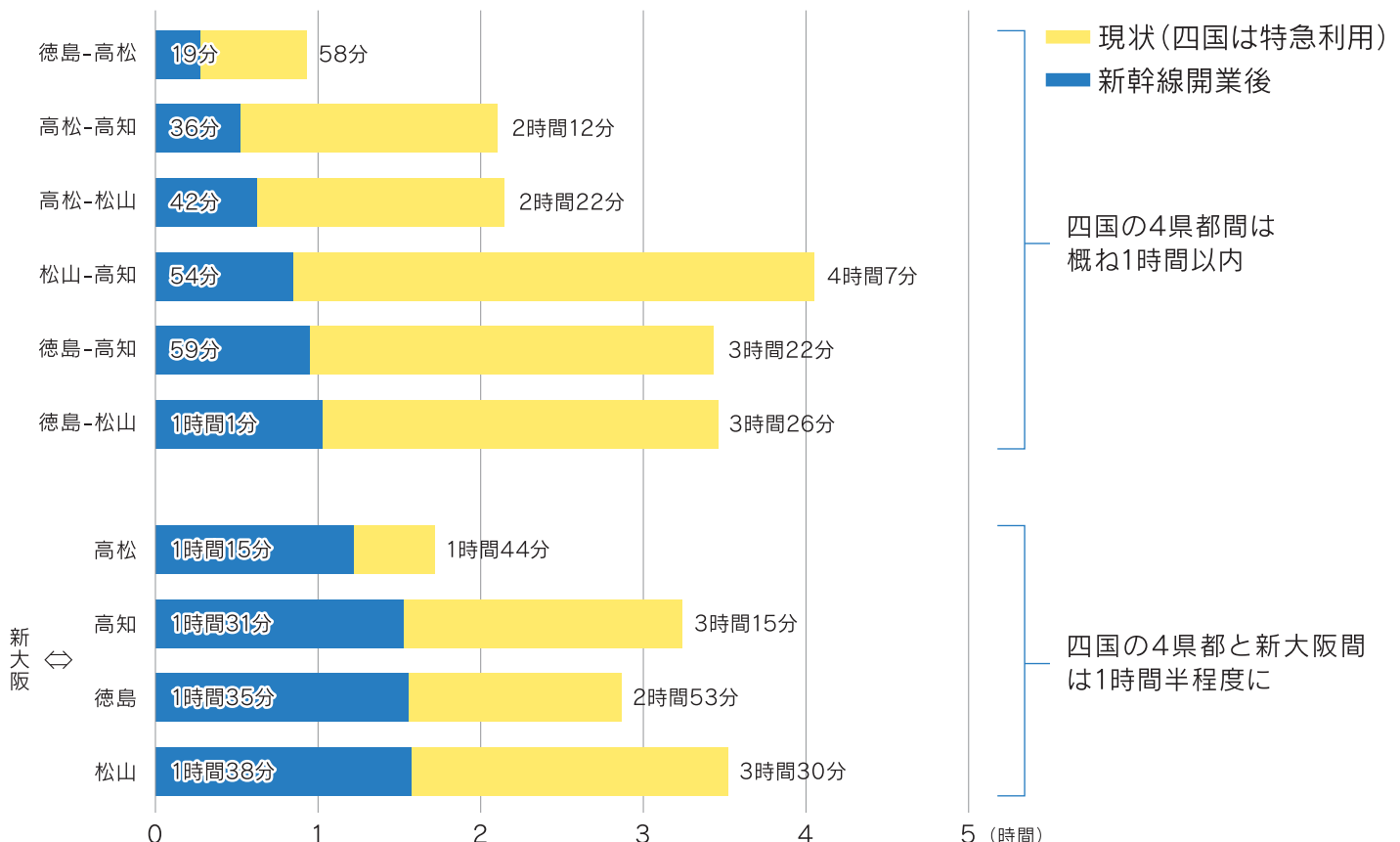
## 6. 自然災害への脆弱性、南海トラフ地震発生への懸念

四国は急峻な地形もあって、交通網が台風や大雨などの自然災害に対し脆弱であり、南海トラフを震源とする巨大地震が大きな被害をもたらす恐れもあります。

# 新幹線による“異次元の時間短縮”がもたらす四国の大変革

新幹線は四国全域に大きな変革をもたらし、その影響は関西圏さらには西日本全体にも波及します。

四国4県都間および新大阪～四国4県都間の所要時間比較



注)本調査では、四国の鉄道高速化検討準備会「四国における鉄道の抜本的高速化に関する基礎調査」(2014年)において、費用便益比(B/C)が1を上回ることが示された「岡山を起点に瀬戸大橋を介して4県都を「T」字型に結ぶルート」を前提に取りまとめている。(ルート図等は裏表紙に記載)

# 四国の新幹線整備で期待される波及効果

四国に新幹線が開業すれば、その効果が多くの分野に、かつ広域的に波及することが期待されます。

## 観光 ～交流人口拡大が四国創生の原動力になる～

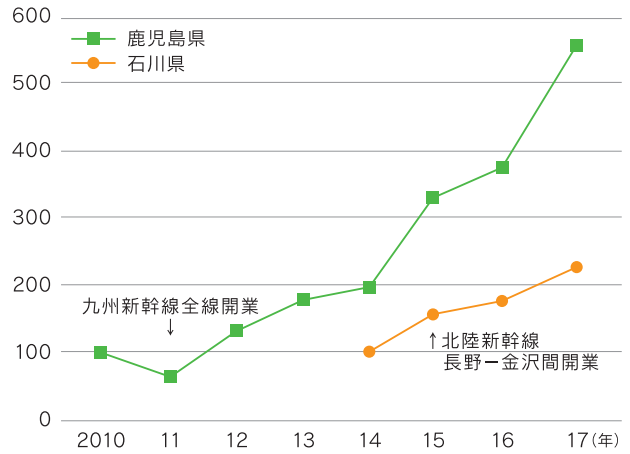
- 観光客数の大幅底上げ、集客範囲の広域化、滞在時間の延長、観光消費の増加
- インバウンド誘致環境の劇的改善、世界遺産登録を見据えた遍路の受入環境整備
- 新たな広域観光ルートの形成、四国一体の観光戦略推進
- 新たな観光列車の運行、周辺地域への観光需要の拡大 など

金沢駅のシンボル「鼓門」<sup>つづみもん</sup>



鹿児島県・石川県の外国人延べ宿泊者数(指数)の推移

2010年、2014年(各新幹線開業前年)=100



資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」を基に作成 注)17年は速報値

## 産業 ～市場拡大・広域連携を通じ成長産業が集積～

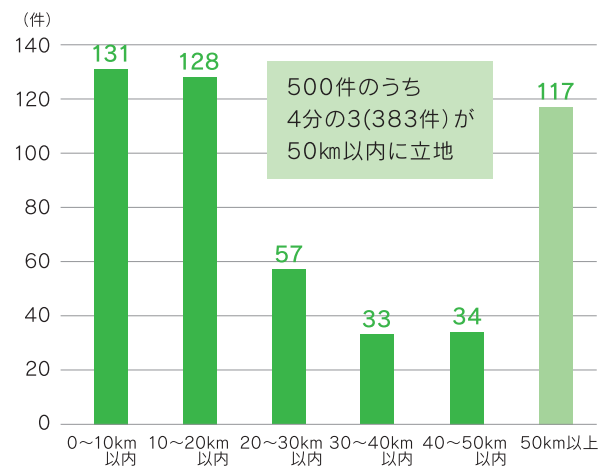
- ビジネス半径の拡大、新たな市場開拓の推進
- 地域の事業環境改善、地元企業のイノベーション推進
- 知識集約型企業や工場の進出・立地促進
- 新幹線駅周辺の商業機能の変貌

北陸へ移転・進出した主な企業

形態	企業名(本社所在地)	移転・立地先	時期
本社機能の移転	コマツ(港区)	石川県小松市	2011.5
	日機装(渋谷区)	石川県白山市	2014.4
	YKKグループ(千代田区)	富山県黒部市	2016.3
	白山(豊島区)	金沢市	2016.3
研究開発部門の拡充	ダイト(富山市)	富山市	2016.2
	YKK AP(千代田区)	富山県黒部市	2016.3
	日本カーバイド工業(港区)	富山県滑川市	2017.1
	キョーリンリメディオ(金沢市)	富山県高岡市	2017.7

資料:石川県、北陸経済研究所、各社ホームページを基に作成

新幹線駅からの距離別工場立地件数(全国、2016年)



資料:経済産業省「工場立地動向調査」を基に作成

注)電気業を除く



## 都市機能・防災 ～都市の魅力、防災力が格段に向上～

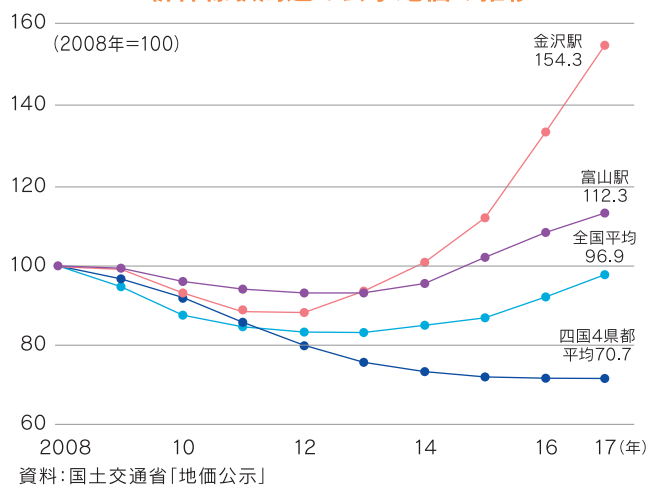
- 新幹線駅周辺の再開発進展、都市の魅力向上
- 新幹線駅を核としたコンパクトなまちづくり
- 新幹線開通都市の地価上昇、自治体税収の増加
- 全国規模、世界規模のMICE※の誘致開催
- 地域防災力の向上、国土強靱化への貢献

※MICE: Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Eventの頭文字のことで、国際会議やコンベンション、展示会・見本市、企業の研修旅行などの総称

鹿児島中央駅前の再開発ビル



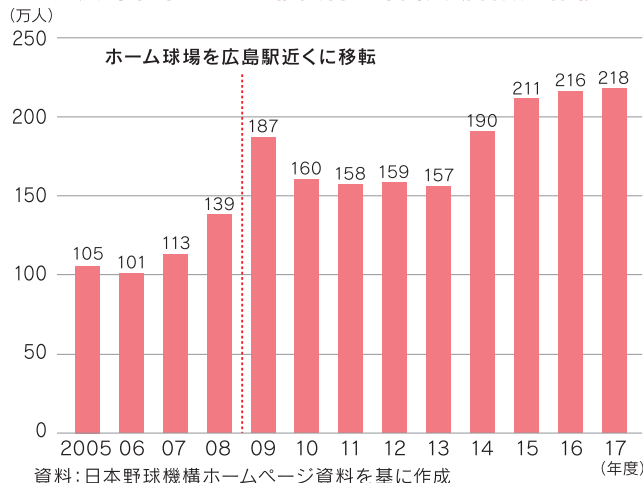
新幹線駅周辺の公示地価の推移



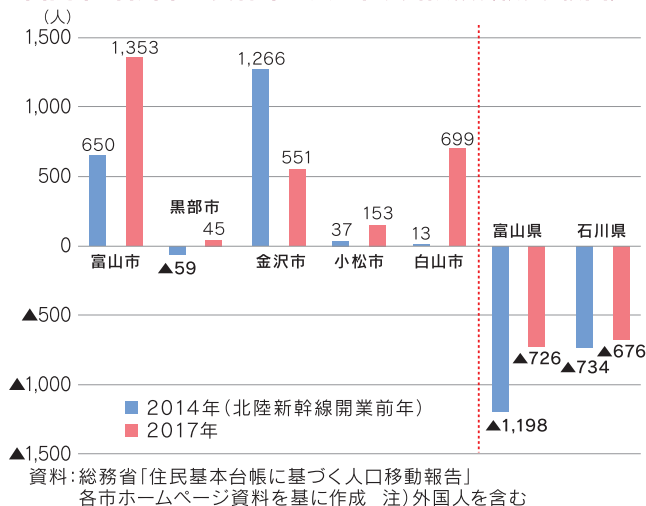
## 生活 ～若者の地元定着、大都市からの移住が進む～

- 通勤圏拡大による地方定住、地域人材の広域的活躍の促進
- 広域集客による公演イベントの増加、プロスポーツの発展
- 大規模な公共施設の広域的利用や整備の促進
- 地域ブロック内の相互往来活発化、一体感の醸成、シビックプライドの高まり
- 人口増加・維持への寄与

広島東洋カープ主催試合の年間入場者数の推移



富山県・石川県主要都市の人口社会増減数(転入-転出)



# 新幹線を活かした四国の地域づくり「3つの基本戦略」と「将来イ

新幹線は真の四国創生を実現するための最大の起爆剤であり、かつ継続的な推進力となる公共的インフラです。新幹線開業効果を踏まえ、四国の地域づくりの基本戦略と将来イメージを提示します。

## 基本戦略

# 1

### 人口200万人規模の “四国ネットワーク中枢都市圏”を形成する

ほぼ1時間以内で移動可能となる新幹線沿線都市を一体化し、各都市が積極的な連携・役割分担を図ることで、「都市機能のスケールメリット」を追求します。



魅力ある都市機能が集積し、多くの人を引き寄せる  
四国が誕生します。

## 基本戦略

# 2

### 新幹線を軸に、 四国全域の成長力を底上げする

四国内外の移動時間の大幅短縮と四国一体の観光・産業振興策が相乗効果を発揮し、経済活力を高めます。また、周辺地域にも新幹線効果を取り込むことで、各地域が持つ潜在力を引き出します。



観光やビジネス、一次産業、遍路など、四国の広範な分野・地域に  
新幹線効果が波及します。

## 基本戦略

# 3

### 西日本経済文化交流圏を構築するとともに、 三大都市圏との連携を深化させる

四国と新幹線で結ばれる関西はじめ西日本各地との相互交流が活発化します。また、リニア中央新幹線を介して三大都市圏が一体化したスーパー・メガリージョンの活力を四国に呼び込みます。



関西・九州などの成長力やリニア開業効果を四国に  
取り込むことで、四国創生を確かなものとしします。

## 将来イメージ

- 地方圏であっても百万都市では当たり前には享受できている、大都市ならではの魅力を四国で楽しめるようになります。
- 四国内において、公共施設整備の選択と集中が行われ、施設の広域的な相互利用も進みます。

- 例
- ◎ 四国にフランチャイズを置くプロ野球球団が誕生
  - ◎ 大型の競技場・体育館が整備され、国際スポーツ大会が開催
  - ◎ 各地の会場や宿泊施設を使い、大型の国際会議やイベントの誘致を実現
  - ◎ 大型の公共ホールが整備され、国内外の人気ミュージシャンや著名オーケストラ、劇団などの公演が開催
  - ◎ 高度医療施設が整備され、四国内外から訪れた患者が最先端の先進医療を受診など



## 将来イメージ

- 不利な立地条件が改善されるとともに、四国一体の観光振興策や産学官連携・オープンイノベーションが推進され、四国経済が活性化します。

- 例
- ◎ インバウンドをはじめ四国への観光客が大幅に増加
  - ◎ 四国企業のビジネス半径が拡大し、販路開拓や企業間連携が進展
  - ◎ face to faceの人的交流が重要となる知識集約型企業等の立地が増加
  - ◎ 通勤圏の拡大により、地域人材の広域的活躍が推進 など

- 新幹線開業効果が周辺地域にも広く波及します。

- 例
- ◎ 四国の新幹線駅から観光列車が常時運行
  - ◎ サイクリングやラフティング、カヌー、現代アートなどの体験型観光に大勢のリピーター客が来訪
  - ◎ 地域ブランドの浸透を武器に、農林水産物等の地場産品の売上が拡大
  - ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録が実現した際には、国内外から多くの巡礼者が来訪 など



## 将来イメージ

- 四国は、中部・関西～九州の中間点に位置する立地条件を活かして、西日本経済発展の一翼を担う地域として存在感を高めます。

- 例
- ◎ 24時間運用の国際空港を有する関西や、アジアのゲートウェイとして発展する九州の成長力を取り込み
  - ◎ 関西～中国・四国～九州を巡る国際広域観光ルートが形成
  - ◎ 西日本各地域とのビジネス交流が活発化
  - ◎ 四国が国の「地方創生回廊構想」で重要な役割を果たす など

- リニア中央新幹線が2037年にも東京（品川）～大阪間で開業し、三大都市圏が約1時間で結ばれる。我が国経済をけん引するスーパー・メガリージョンと新幹線で直結することで、その波及効果が四国に誘導されます。





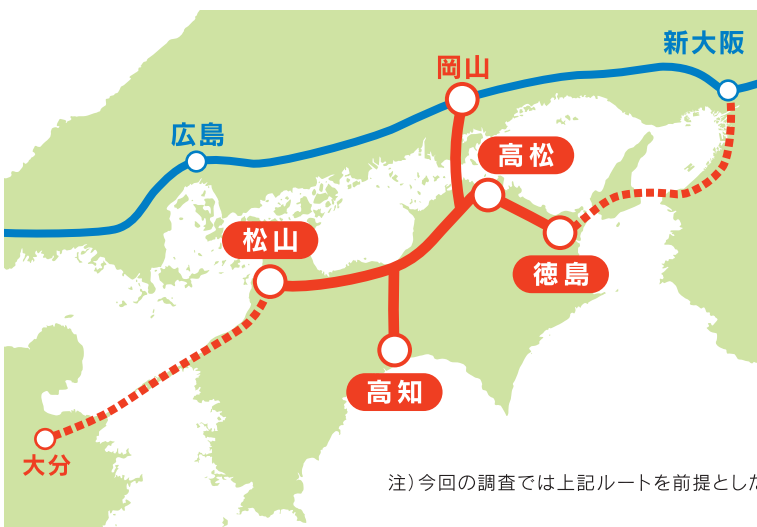


# 四国に新幹線が走る日

## 今回の調査結果を踏まえて

- ◎新幹線は観光、産業、まちづくり・防災、住民生活など、多方面に大きな効果をもたらします。新幹線は次代を担う若者の夢や希望の実現に向けた「未来投資」です。「新幹線を一刻も早く四国に」との熱い思いのもと、**まずは整備計画への格上げを目指し、四国が一丸となって国への要望を続ける必要があります。**今、四国の団結力が試されています。
- ◎本調査では、新幹線を活かした地域づくりについて、四国全体の基本戦略を描きました。地域づくりは一朝一夕にできるものではありません。**今後は、四国の各地域が新幹線整備を見据え、早期に地域づくりの具体ビジョンを描き、その実現に取り組んでいくことが重要です。**

## 四国の新幹線整備のイメージ



整備延長	302km
概算事業費(車両費含む)	1.57兆円
費用便益比(B/C)	1.03
経済波及効果	169億円/年

- 瀬戸大橋は既に新幹線規格で建設されているため、**既存インフラを有効活用**できます。
- 投資効率性の指標となる費用便益比(B/C)は1を上回っており、**新幹線整備の妥当性が確認**されています。

資料: 四国における鉄道の抜本的高速化に関する基礎調査(2014年)

**四国の新幹線**  
今こそ考えよう。四国の未来のために。

四国の新幹線

検索

四国新幹線整備促進期成会(事務局: 四国経済連合会)  
四国アライアンス地域経済研究分科会

新幹線を活かした四国の地域づくりビジョン調査報告書(概要版)  
2018年6月(第2刷)